



はじめに

社会学部 4 年

小川 真科

我が国の鉄道史において、2022 年は鉄道開業から 150 年という節目の年となった。

この 150 年の間に、我が国の鉄道技術はあらゆる面で発展を遂げてきた。国土全体に張り巡らされた鉄道網をフル活用することで、1 日に何千万人にも及ぶ乗客を時間通りに、安全に目的地まで送り届けることを可能にしてきた我が国の鉄道システムは、今や世界でも有数のものだと言っても過言ではない。

ときに、鉄道の「発展」の歴史は「省人化」の歴史と言い換えることもできるだろう。人員の削減と業務の効率化を追い求め、ワンマン運転や自動改札のようなシステムの導入を推し進めてきた、技術革新の歴史の行き着く先として、スマートフォンの画面をかざすだけで改札を通り、自動運転の列車に乗り、無人の保線システムによって点検された線路を通して目的地まで向かうという、150 年前の鉄道の乗客からすれば想像もできなかったであろう未来がすぐそこまで来ようとしているのだ。

これまでの鉄道史は「省人化」の観点からどのように振り返ることができるのか、そして次の時代の鉄道はどのような姿に変化していくのか。我が国の鉄道が辿ってきた「発展」と「省人化」の軌跡と、未来の鉄道の姿に思いを馳せながら、本誌をお読みいただければ幸いである。